

## 地域社会づくりへの参加

生活協同組合(生協)は、消費者、生活者の組織として戦後大きく発展し、2014年度の集計で、全国で約2,700万人の組合員、供給高3.3兆円の規模となっている。

全国の生協が現在、重点課題として、特に力を入れているのは「地域社会づくりへの参加」である。言うまでもなく生協は、組合員(消費者)自身が出資し、協同してよりよい生活を求めて誕生した、まさしく「助け合いの組織」である。現在の地域社会は、様々な課題を抱えている。貧困、格差、孤立、雇用、買い物不便、介護等々、日々のふだんの暮らしを営むうえで、様々な課題に直面しており、それが年々深刻化している。もちろん地域によって、抱えている課題や困難な状況は異なる。だからこそ、その地域にある生協が、組合員(消費者)のふだんの暮らしを支える役割を担おうとすれば、当然、地域の課題の解決に真正面から立ち向かわざるを得なくなる。

宮城県にある「みやぎ生協」が発行している困った時のお役立ち情報冊子『こ～ぷくらしサポートガイドブック』を見ると、組合員の困り事に対して、生協がどのように事業・活動として対応しているのかを理解することができる。みやぎ生協は、宮城県での世帯組織率が7割を超え、全国でもトップである。ほとんどの県民が加入しているからこそ、多くの組合員の困り事に向き合ってきたことで事業・活動の幅が広がってきた。

生協がこうした地域社会づくりに参加していくうえで、大切にしたい視点は、次の4点にまとめられる。

第一に、生協の事業そのものが地域社会づくりであり、生活上の重要なインフ

### こ～ぷくらしサポートガイドブックより (タイトルのみ列挙)

個人宅配・共同購入/夕食宅配/こ～ぶふれあい便(買い物代行)/せいきょう便(移動販売)/店舗からの当日宅配サービス/高齢者等やさしい店づくり/配達灯油/保育園・学校等への商品配達/宅配水アクアクララ/コープガスサービス/暮らしのサポートサービス(作業代行)/住まいサービス/こ～ぷくらしの助け合いの会/ボランティア活動/被災者手作り品の販売支援/コープフードバンク/くらしと家計の相談室(生活相談、貸付事業)/福祉活動への助成金制度/子育て支援活動/保育所(一時預かり)/子供の学習支援/コープ福祉会(福祉介護事業)/高齢者見守り活動/

うである宅配、店舗、介護・福祉事業をさらに成長・発展させていくことが、地域の暮らしを支え、豊かにする最大の貢献である。これは生協の社会的使命としても大事にしていきたいと考えている。

第二に、「助け合いの組織」として地域の消費者・生活者、組合員どうしのつながりを広げ、希薄化している状況であれば再生していくことである。今後ますます高齢者の単身者(世帯)が増加する。「一人暮らしになっても一人ぼっちにさせない」地域のつながりを大切にしていこう取り組みを大切にしていきたい。全国の生協では、「助け合い活動」(組合員のボランティア活動として支援を求める人と支援できる人をつなぐ活動などが代表的な活動例)が長く続けられており、14年度で102万時間、2.3万人の活動参加があった。

第三に、生協は地域を構成する一員として、地域で活動するNPO、NGO、協同組合、社協、行政、PTA、自治会等々、様々な団体と共に地域づくりを進めていくことである。全国の生協では、市町村と「地域見守り協定」を締結する取り組みが進んでいる。15年12月現在、全国1,741市町村のうち、825市町村(47.3%)と締結が進んだ。見守り活動は、コンビニや宅配業者、新聞配達など地域の各団体と連携して高齢者、子供などを対象に進めてられている。生協の宅配事業で週1回定期的に高齢者世帯等を訪問していることを行政から見守り活動の一つとして高い評価をいただいている。

第四に、生協は助け合いの組織として、様々な困難を抱え、弱い立場にある人たちを支え、寄り添いながら地域の課題に取り組むことを大切にしていきたい。生活困窮者に加え、震災などの被災者、障がい者、ニートなど支援を必要としている人たちは地域の中に沢山いる。ヨーロッパでは、社会的企業、社会的協同組合が社会的包摂の視点でこうした人たちを地域社会で働く場や居場所を提供することで、自立を支援し地域社会に参加する場を作っている。

最後に、地域の課題解決は、当たり前だが生協だけでできることはほとんどない。地域社会をよりよくしたいと願う多くの地域の諸団体とのネットワークが重要である。広い意味で協同組合は助け合いの組織である。地域にあるJAをはじめとした協同組合どうしの連携・共同でよりよい地域社会づくりを進めていきたい。

**(日本生活協同組合連合会 専務理事 和田寿昭・わだ としあき)**